



今ここで頑張っています



海外で研究を頑張っています

チェコ科学アカデミー 研究員
阪田薫穂



2008年に逢坂・本間研究室で博士課程を終えてから、早いもので約10年経ちました。その間、応用化学科の助手を務めた後（2008-2009年）、アメリカのスタンフォード大学で客員研究員を務め（2009-2010年）、その後、宇宙航空研究開発機構（2010-2014年）や東京大学（2014-2018年）で博士研究員として勤務しました。そして、現在はチェコ共和国のプラハにある国立研究機関、チェコ科学アカデミーのJ・ヘイロフスキー物理化学研究所で研究員をしています。

前述のように、初めての海外研究生生活はスタンフォード大学で始まりました。サンフランシスコ・ベイエリアに位置するこの大学には、筆者にとって最先端の極めて興味深い研究を行っている研究者が集まっていました。ITインフラも非常に高度で居心地よく感じました。また、研究室の同僚は皆、同年代でしたが国籍は皆違っており、インド、中国、台湾、フランスとまちまちでしたが、お互いとても仲が良く、それぞれの文化を紹介しあったりして多くの刺激を受けました。

帰国してから所属した宇宙航空研究開発機構では、国際宇宙ステーションでの結晶成長実験プロジェクトのチームに参加しました。宇宙実験を行うためには長期間に渡って地上での沢山の予備実験を重ねる必要があり、実際の宇宙実験に立ち会えたのはとても幸運なことでした。宇宙飛行士が国際宇宙ステーション内で実験のセッティングをしている時、作業がうまく進まないこともあり、モニターを通してはらはらしながらその光景を見守っていたことを思い出します。また、そのプロジェクトでは共同研究者にインドの研究者が多く、共同作業をする際には、周囲の方々が情報共有の仕方を工夫していたことも大変参考になりました。東京大学では、人工光合成プロジェクトに参加し、ここでも、中国や韓国、その他様々な国々出身の博士研究員と共に研究を行いました。また、このプロジェクトには企業からも研究員が数多く参加していたので、年齢層も広く、様々な価値観や研究の進め方に触れることが出

来て、自身としては貴重な経験をさせて頂きました。

現在のチェコでの生活は、私にとって二度目の海外生活となります。今行っている研究は、主に電極触媒についての研究で、応用化学科で物理化学に出会ってから、ご縁があって続けてきた分野です。今所属している研究室には、国籍がチェコ、ドイツ、モルドバの学生がいて、一緒に研究を進めています。チェコでは、英語を話してくれる人も勿論沢山いますが、特にチェコ人同士は基本的にはチェコ語で話し、職場の食堂のメニューもチェコ語で書かれています。これは、逆に考えると、日本でも海外から来た人がよく遭遇しそうな状況に似ているような気がします。チェコでの生活を通して、日本にきた留学生がどのように感じるかを自分のこととして理解できるようになりました。

これまで所属してきたどの場所でも、様々な国籍の研究者と出会いました。また、それぞれの研究の場所は、実際行ってみると想像とは違っていることがほとんどでしたが、違うと想像していた部分が似ていたりもしたので、経験してみるまでわからないというのが実感です。振り返ってみると、自分にとって未知の場所でも思い切って飛び込んでみて良かったなと思っています。

そして、これまでの研究生生活で、沢山の職場を経験することができましたが、行く先々で、早稲田出身の方々、特に応化のOB・OGの皆様、そしてご父兄の皆様に、色々と親身にサポートして頂きました。ある先輩は、「この職場にも早稲田出身者は沢山いるよ。いつも一緒にいるわけではなくても、何かあったときは集まるからね」と、『都の西北』を歌うときのように、拳を握った手を上下に振りながら話して下さいました。種々の分野で早稲田大学関係者が活躍されているということが、改めて感じられましたし、新しい場所に移動する度にそのことをとても心強く感じました。この場を借りて関連各位に改めて厚く御礼申し上げます。